

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:令和2年 2月 28日

事業所名 大阪発達総合療育センターふたば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○		安全な環境で活動ができるように環境調整・活動の工夫や配慮を常に考えています。	今年度、職員の入れ替わりがありましたが、保育士・看護師・セラピストと、それぞれの職種の役割と取り組みの内容の具体化し、協働しながら今後も課題解決に取り組んでいきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			埃のたまりやすいところ、また、感染症予防のためにも鼻汁や流涎などへの対応についてもご家族が気持ちよく施設を利用できるよう一人ひとりの職員が意識をもって対応していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		事業所評価表とは別に保育活動についてのアンケートを年1回行っています。	保育の内容や取り組んでほしい支援等について、ご家族の意見を参考に毎年、次年度のスケジュールやカリキュラムに反映させています。今後も質問項目等の検討を行い、より良い支援につながるように改善していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		各職種の専門性の向上を目指し、内部・外部研修への参加を積極的に行っています。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ご家族へのモニタリングと本人の発達状況からアセスメントを行い、本人・ご家族のニーズを踏まえて支援計画に反映することに努めています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援ガイドラインに則り、他職種の視点もふまえながら具体的な支援内容を提示しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラムに関しては保育士のみでなく、看護師やセラピスト等、様々な視点からの意見を取り入れて立案を行うようにしています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間保育計画に則り、保育活動を行っています。季節の活動や行事、家族参加型のイベントの開催など普段とは違った活動を経験する機会についても多く取り入れるように工夫しています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日に保育活動に加わる全職員(保育士・看護師・セラピスト)で活動の目的とねらい、姿勢設定等について確認を行っています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了時には全職員(保育士・看護師・セラピスト)で振り返りを行い、次の活動へ活かせるように努めています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		家族や担当の相談支援員を通して連携を図っています。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて、保護者の同意を得て連携をとっています。インクルーシブ教育コーディネーターや担当職員等との電話連絡、保育活動やリハビリ場面の見学等の案内を行い、支援内容等の情報共有に努めています。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		また、保育・教育・療育等、支援に関わる支援者を対象としたワークショップを月に1回開催し、様々なテーマでの学びの場を提供しています。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		年間6回、近隣の保育所との交流保育を実施しています。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子通園のため、活動についてのフィードバックを即座に行うことができるのは強みと捉えています。活動に関しての良かったことや課題となることなどの話し合い、また家庭での様子を伺うことにより共通の認識を持ち支援にあたるよう心がけています。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		ご家族向けの勉強会やグループワークなど内部、外部講師を招いての取り組みを年間を通して行っています。	
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	○		保護者会は作っていませんが、勉強会やグループワーク、イベント等を通して保護者同士の繋がりを支援できるよう努めています。	
	36	○			
	37	○		毎月のお便りに加えて、随時、連絡事項についてはボードへの貼り出し等を行っています。また、LINEグループを利用し、活動や行事等の情報を迅速に届けられるように工夫しています。	
	38	○			
	39	○			
	40	○		行事の際には地域住民のボランティアを募り、協力も得ています。また、地域の消防署への見学や交流保育を通して地域との交流にも努めています。	
非常時等の対応	41	○			感染症マニュアルについては、入園式で配布しております。その他の項目についても改めてご家族にお伝える機会を設けさせていただきます。
	42	○			
	43	○			
	44	○			
	45	○			毎日の振り返りの際に「今日の出来事」として共有をしています。日誌には記入していますが、事例集を作成していないため、今後、作成します。
	46	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。